

27. 捕食性天敵によるハウレンソウケナガコナダニの防除法の開発

1. 背景とねらい

広島県内のハウレンソウ産地でハウレンソウケナガコナダニが発生し、品質・収量の低下が問題となっている。登録農薬は少なく、しかも施用時期が限られ、効果も不十分であるため、耕種的・生物的・物理的防除法等を取り入れた総合防除の確立は緊急な課題である。そこで、ハウレンソウ産地で見つかった在来天敵利用の基礎資料とするため、天敵を維持する資材として、イナワラ、フスマおよび堆肥（バーク）に生息する微小昆虫数を調査した。

2. 技術の内容

- 1) 廿日市市吉和および庄原市高野町のハウレンソウ栽培ハウスの周辺部にイナワラを置き、経時的にサンプリングし、ツルグレン法により、ケナガコナダニ（未同定のため、以下、コナダニ類とする）およびその他の微小昆虫の数を調査した。また、農業技術センター圃場のハウスの周辺に、イナワラ、フスマ、堆肥（バーク）を置き、現地と同様にサンプリングし、調査した。
- 2) ハウレンソウ栽培ハウスの周辺に置いたイナワラでは、夏から秋期にもトゲダニ類の生息を認めた（図1）。コナダニ類の発生は少なく、調査期間中のすべての調査日において、エサとなるトビムシ類を確認した。
- 3) 農業技術センター圃場調査でも、イナワラ、フスマ、堆肥でトゲダニ類の生息を認めた（図2）。フスマは9月下旬には分解し、調査ができなくなった。トゲダニ類が安定的に推移したイナワラが有望であった（図2）。
- 4) 以上のことから、ハウレンソウ栽培ハウス周辺には捕食性天敵のトゲダニ類が生息しており、安定的にそれらの密度を維持するための資材として、イナワラが有望と考えられた。

3. 今後の計画

- 1) ハウレンソウハウス内周辺部にイナワラを置き、土着のトゲダニ類を増殖させて、コナダニ類を防除する技術を検討する。

(生産環境研究部)

4. 具体的データ

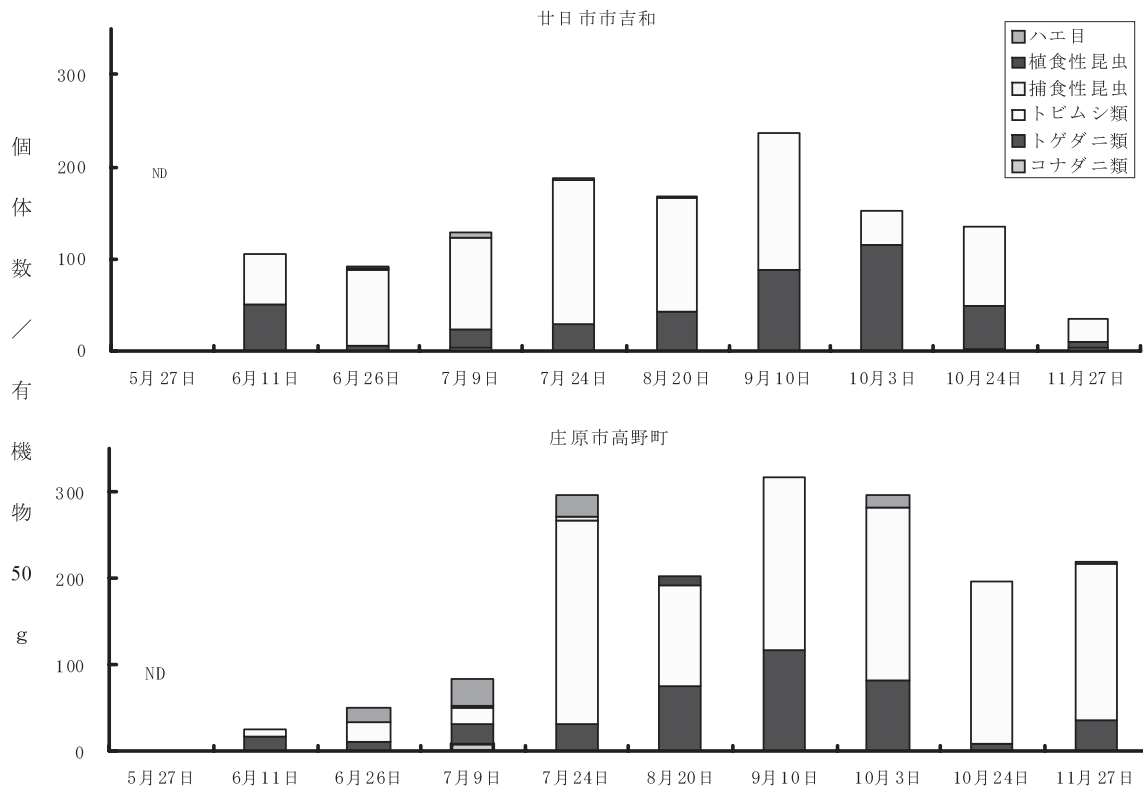


図1 ホウレンソウ栽培ハウス周辺に置いたイナワラでのトゲダニ類の発生推移 (2008)

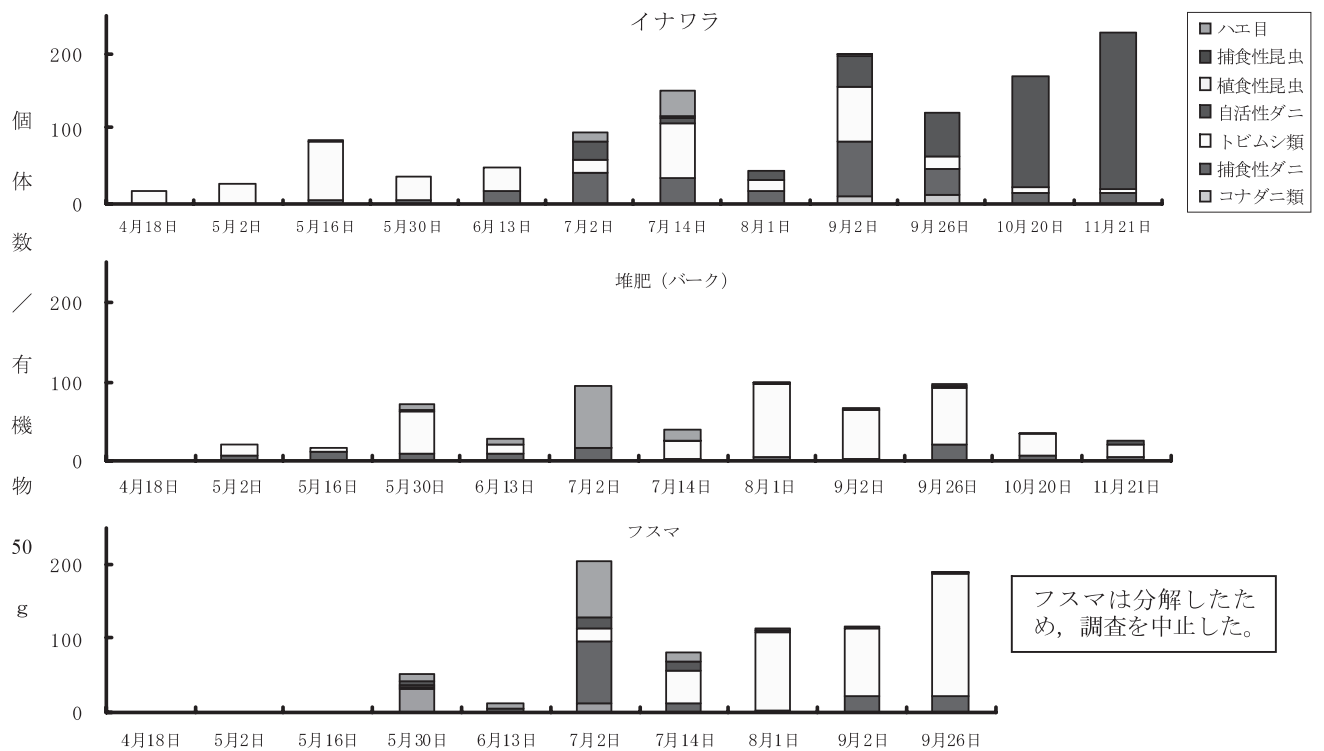


図2 農業技術センター内圃場に置いた有機物でのトゲダニ類の発生推移 (2008)